

地域の活動を着実に前に進める！ プロジェクトの立ち上げ方について

一般社団法人 ねばのもり 創業者 杉山 泰彦





杉山 泰彦（通称：マギー）

一般社団法人ねばのもり 創業者 /

<経歴>

名古屋出身。幼少期は転勤族で小中はアメリカで過ごす。

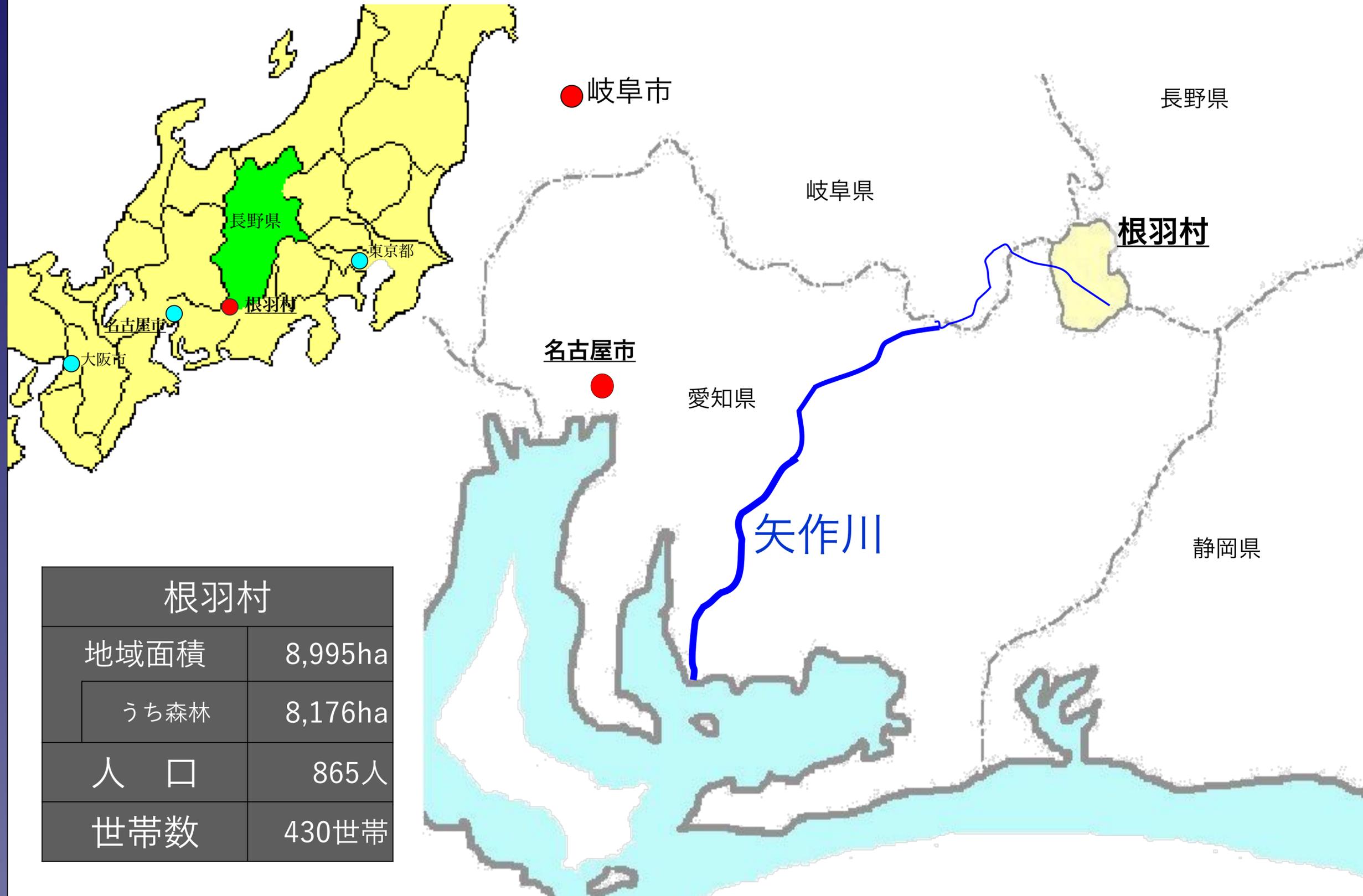
大学卒業後、東京のスタートアップにて3年勤務後、2017年2月より地方創生会社の事業立ち上げに参画。地域PR・移住定住サポート事業を中心に累計20地域を担当。

2018年12月より東京から長野県根羽村に夫婦で移住。「自分自身が生きる力を身に付ける」ことを目的に、村民としての新しい人生をスタート。

2019年4月より根羽村役場の地域活性化人材として「根羽村PR戦略担当」として様々な戦略構築・実行を行い、2年連続人口社会増・、メディア露出増、関係人口増等の実績をつくる。22年3月にて任期終了。

2020年8月、一般社団法人ねばのもり設立。村の中間組織としてのコーディネートを実行中。

根羽村の概況



根羽村	
地域面積	8,995ha
うち森林	8,176ha
人口	865人
世帯数	430世帯

根羽村について

岐阜県と愛知県の間境、長野県の南西部最南端に位置する根羽村。
流域人口110万人が恩恵を受ける矢作川源流の山あいの村に、900人が暮らしています。

面積の92%が森林で、村民すべてが森林組合員。

川の水は山から流れ、森を守らなければ水は守れない。

「親が植え、子が育て、孫が伐る」ことによって、村人は代々森を守ってきました。



高齢化と人口減少

山を育て、土地を耕し、自然の恵みのなかで生活をする山村の暮らしは近代化による木材価格の低迷や産業構造の激変のなかで急激な過疎化を迎えました。森の保全や、拡大する耕作放棄地を解消する労働力を失ったいま長いあいだ源流を守ってきた村は消滅の危機を迎えています。



根羽村だけにネバー・ギブアップ

若者が村を変える！村人たちに受け継がれてきた「独立自尊の精神」。
かつて宿場町『根羽宿』として、さまざまな人や物の往来で活気に溢れていた時代からの
新しい人や物を受け入れるオープンなマインドは、冒険心豊かで気概溢れる若者を
惹きつけ、村は若い移住者と高齢者が一丸となって新しいチャレンジを始めます！



数字でみる
2020年度の
根羽村の成果

19世帯 46名

移住者数 (トライアル移住者含む)

- 20年度より始まったトライアルハウスが移住促進施策となった
- 村としては平成以降初となる社会増となる見込みとなった

県外17団体
県内4団体

村づくりに関わる事業者数

- 企業との関係人口作りを推進
- 流域沿いの企業・自治体との連携も
- 観光・介護・ものづくりなど幅広いジャンルでの連携が行われた

6世帯 (2021年度予定)

山村留学世帯数

- 2019年度よりスタートした制度
- 20年度はSNSを積極活用
- 昨年度より5倍の申込となった

新規5名

地域おこし協力隊活動人数

- 農業、林業でそれぞれ20年度4月より活動
- 映像を活用したPR担当が20年度6月より活動
- 教育、観光に1名ずつ
21年度新規活動予定

40記事

根羽村の活動の取材掲載数

- 新聞に年間35記事掲載
- WEBメディアにも5記事掲載
- 多くが教育にまつわる記事
- オンライン活用も注目された

4社

地域活性化企業人導入数

- 教育魅力化、ICT推進で1名
- 村全体のSDGs施策推進で1名
- 観光事業の新規立ち上げで1名
- 木の布プロジェクト推進で1名

るため関係省庁の連絡会議を立ち上げた。人権侵害は法務省、物品購入の消費者契約は消費者庁という縦割りにとられず、全体像を把握することが重要だ。

あくまで一般論だが、宗教団体が信仰の一環として信者から寄付

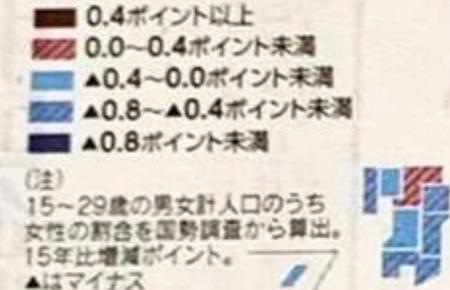
移住・就職 一体受け入れ

入れた。少人数教育が受けられるのに加え、民間と連携して山登りなど体験型の放課後教室や受験指導まで視野に入れた学習も整え、応募が相次ぐ。一連の施策は若年女性を呼び込むた

は世界的に大きな影響を語る米国内では反論する声も出ているが、一定距離を電気だけで走るプラグインハイブリッド車(PHV)が禁止対象から外れるなど、現実的な選択肢も残した。今後は多く

15~29歳、長野・根羽村が首位

若年女性割合の都道府県別増減(2020年)



若年女性割合が継続的に上昇している都府県

都府県	若年女性割合	連続上昇期数
東京都	56.7%	2期
大阪府	56.4	2
埼玉県	55.0	4
神奈川県	54.5	3
宮城県	54.5	3
千葉県	54.2	2
愛知県	52.6	3
兵庫県	52.4	3
鳥取県	51.0	3
山口県	50.3	4
福岡県		

若年女性割合が継続的に上昇して高い主な市町村

順位	市町村	若年女性割合	連続上昇期数
1位	長野県根羽村	56.7%	2期
2	北海道初山別村	56.4	2
3	鹿児島県垂水市	55.0	4
4	三重県紀宝町	54.5	3
5	鹿児島県いちき串木野市	54.5	3
6	和歌山県太地町	54.2	2
22	山形県西川町	52.6	3
26	島根県海士町	52.4	3
59	栃木県大田原市	51.0	3
82	徳島県神山町	50.3	4

(注)5年に1度の国勢調査から算出した若年女性割合が2020年まで連続して上昇している期数を数えた。同じ値は小数点第2位以下で順位付け



長野県根羽村は受験指導まで視野に入れた塾を立ち上げた

Asia

QRコードを読み取ると英文の記事が読めます

ドーピング氏の娘の死にロシアの極右勢力が反発し、ウクライナへの攻撃強化を政権に求めるのは、ドゥーギン氏の死

ライナのナチス政権によるテロだ」と言明した。ウクライナのポドリャク大統領府長官顧問は事と反発した。

この日の定例会に、村側は総額2億1000万円の本年度一般会計補正予算案を提出し、昨年度決算認定など計10議案を提出。予算案には臨時財政対策債の繰上償還に4.42億円の多目的施設センター前道路の拡幅工事費177万円、美術植取蔵庫の増築工事費2億887万円を計上し、財政調整基金に1億300万円を積み出した。予算案には臨時財政対策債の繰上償還に4.42億円の多目的施設センター前道路の拡幅工事費177万円、美術植取蔵庫の増築工事費2億887万円を計上し、財政調整基金に1億300万円を積み出した。

南信州

南信州新聞社
〒390-0102 長野県南信州郡根羽村
電話 0265-33734
FAX 0265-33734
編集 0265-33734
FAX 0265-33734
出版 0265-33732
FAX 0265-33732
振替口座 00590-0-3452

新東洋ガソリンスタンド

車検入庫でガソリン10引き

民間車検指定工場

トヨタカー7センター

0265-23-7744

株式会社 東洋

0265-22-7155

きょうの紙面

7 市議会一般質問要旨 13日

6 南信地区中学校弁論大会

6 特集 行人様秋の祭典

4 松川町でSDGs教育旅行研修

3 茶臼山高原で秋の花見頃

2 子どもの居場所づくりセミナー

日言

業は考えない

京から

大

根羽村が総務大臣賞に

過疎対策で先進的な優良事例を表彰する本年度の「過疎地域持続的発展優良事例表彰」で、根羽村が「総務大臣賞」を受賞した。総務省が13日に発表

減少を止め持続可能な村にするため、外部人材活用や官民協働で、移住施策として村にお試しで住めるシェアハウス「トライアルハウス」を設け、若者が将来の村のあり方で意見交換を重視するなど、官民連携で地域づくりのため人材育成に取り組む。村は19年度に人口が社会増となり、21年からの2年にかけて人口が増えた。また、林業を基幹産業とする同村は、矢作川下流域の自治体や民間企業、市民団体と連携して森林保全に取り組み、環境面からも持続可能な地域づくりを進めている。

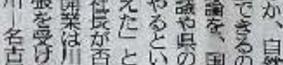
大久保一村民は「単発的ではなく、さまざまな取り組みが複合的に進んで少ずつ成果が出ていく」とし、取り組みが評価されることは村民の自信と誇りにつながる。受賞に契機にさらに前へ進め、住んで良かった、住んでみたいと思ってもらえる村をつくらせていきたい」と話した。

この日の定例会に、村側は総額2億1000万円の本年度一般会計補正予算案を提出し、昨年度決算認定など計10議案を提出。予算案には臨時財政対策債の繰上償還に4.42億円の多目的施設センター前道路の拡幅工事費177万円、美術植取蔵庫の増築工事費2億887万円を計上し、財政調整基金に1億300万円を積み出した。予算案には臨時財政対策債の繰上償還に4.42億円の多目的施設センター前道路の拡幅工事費177万円、美術植取蔵庫の増築工事費2億887万円を計上し、財政調整基金に1億300万円を積み出した。

「持続可能な村づくりを」

泰阜村の横前明村 姿勢を強調した。横前村長は「村民一人一人が村づくりに関わっていくことで環境整備を進め、2023年度中、考えで、多くの人が目指して有効性のあに保育所の近くの村有林を「こどもの森(仮称)」として活用できるような整備する。2023年度中、考えで、多くの人が

知事は「早期着工のためにはやるべき手続きを促している。また、生産者の問題は、川上川下を巡るJRリニア中央新幹線開通による影響を軽減し、甲府、神



川上川下を巡るJRリニア中央新幹線開通による影響を軽減し、甲府、神

根羽村の ここ10年の主な 取り組み



森林組合の木育活動



山地酪農



サステナブルな森づくり



義務教育学校の開校



信州大学農学部との連携



矢作川流域での連携推進



杉の木からつくる繊維「木の布」プロジェクトを多方面に展開中



森を活かした「教育サービス」の展開



子どもの個性を輝かせる
村独自の教育システム



学生がつくる「森のテーマパーク」
2019年度 中興座主徳のSDG+未来



村民×デジタル施策の推進
根羽村の学校では文科省のCICAプロジェクト

根羽村が目指す これからの 新しい日常

地域の活動を着実に前に進める！ プロジェクトの立ち上げ方について

一般社団法人 ねばのもり 創業者 杉山 泰彦





根羽村 地域循環共生圏の 取り組みについて

ワークショップの目的（中の人にとって）

30代~40代の村内在住者がこの地域で
今後も「楽しく生き続けられる」環境をつくる

コミュニティビジネスの定義（経済産業局より）

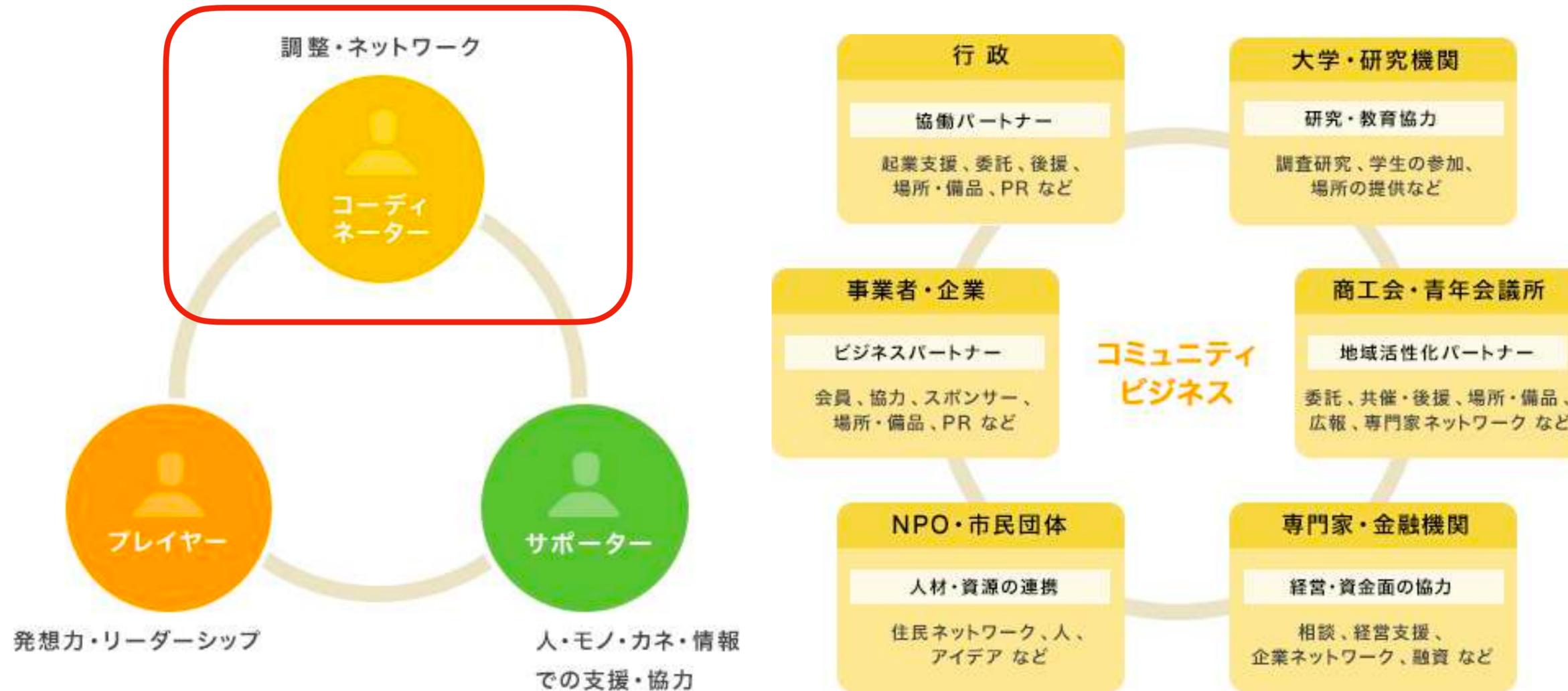
「コミュニティビジネスは、**地域課題の解決を「ビジネス」の手法で取り組む**ものであり、地域の人材やノウハウ、施設、資金を活用することにより、地域における新たな創業や雇用の創出、働きがい、生きがいを生み出し、**地域コミュニティの活性化に寄与するもの**」



<POINT>

- ・ 組織目的が利益ではなく地域社会魅力の再活性化（ただし、営利も大事）
- ・ 民間が主体でとなって活動が行われていること
- ・ 「ビジネスの手法」を取り入れることで、経済的持続可能性を追求する

コミュニティビジネスで担っている機能





いつまでも居たい森を、共に描こう。

「ねばのもり」は、長野県根羽村を舞台に、森と共存していく里山をつくるプロジェクトです。これからの森づくりで大切なことは、たくさんの人々と共にアイデアを実践・実行していくこと。あなたの大切なアイデアは、ここ根羽村で形にできます。

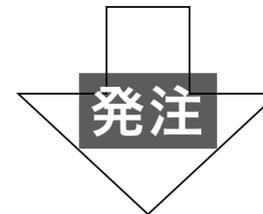
担う役割

紡ぐ・企む・繋ぐ

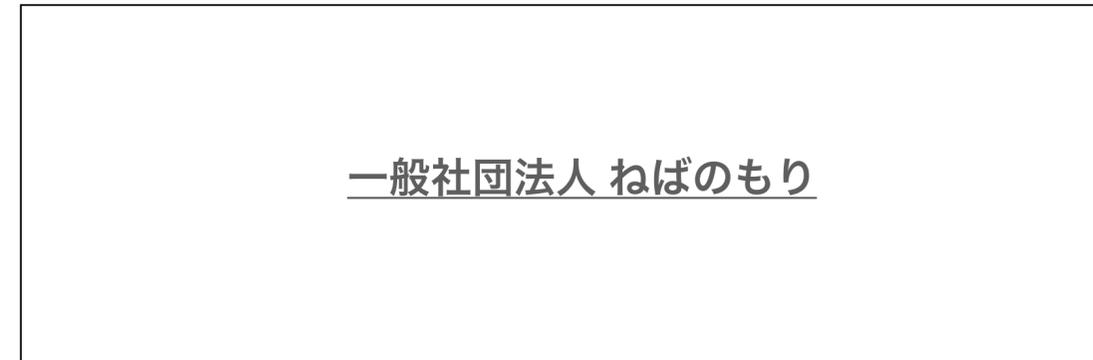
村にある個性や資源を紡ぎ、
それらを繋ぎあわせた企画を企み、
繋ぎ合わせて事業として持続させていくことで
「ねばむらごこち」の良い文化を根羽村に根付かせつづける
(コミュニティビジネスにおけるコーディネーター)

事業推進方法 その1 (官民連携による委託事業)

上流
(予算確保)

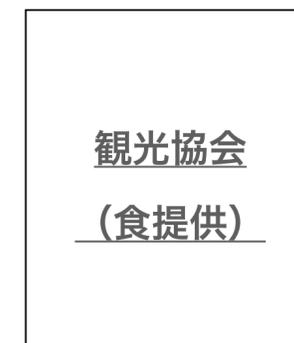
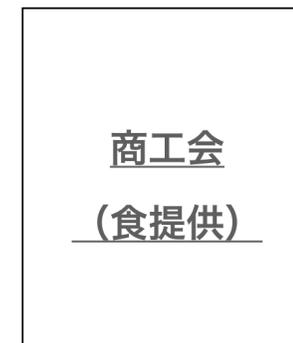
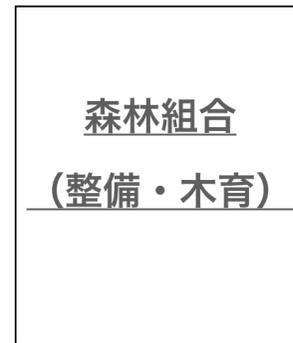


中流
(編成)



村内コーディネート

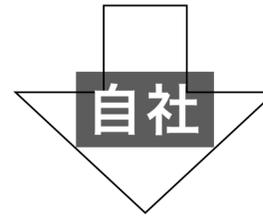
下流
(編成)



事業推進方法 その3 (自主事業)

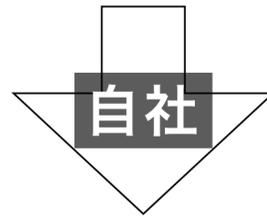
上流
(予算確保)

民間



中流
(編成)

一般社団法人ねばのもり



コーディネート

下流
(実行)

一般社団法人
ねばのもり

森林組合
(整備・木育)

商工会
(食提供)

観光協会
(食提供)

いつまでも居たい森を、共に描こう。

人口900人、森林が9割を占める

矢作川源流の根羽村で

自然と共存しながら

“村ごこちよく” 過ごせる

アイデアを村内外の人と

チームになって実現します。

野外体験事業

山村利活用事業

放課後こども教室事業

村暮らし事業

体験宿泊事業

事業1:子供向け事業 (放課後子ども教室事業)





事業2：施設運営事業（コミュニティースペース・くりや）



事業2：施設運営事業（コミュニティースペース・くりや）



事業2：施設運営事業（コミュニティースペース・くりや）



木村食堂 Vol.1 開店☆
Menu... 8/130~
・鹿と猪のハンバーグ
・インゲンのトマト煮
・鹿カリ
・アゴエシードクインのホドテサテ
・根羽羽のとうもろこしごはん
・なすの口味噌煮
・そめりのさんじら e...
☆100円/50g
その他、お菓子や油の量り売り

達成に向けての道筋

点づくり

個性と資源を
紡ぐ

【活動内容】

- ・ 既存村民の個性の発掘
- ・ 村内資源の発掘
- ・ 新規村民の移住/関係人誘致
- ・ 村内向け学習機会の創出

線づくり

点を軸に
企画を企む

【活動内容】

- ・ 個性をベースとしたコンテンツ開発
- ・ 資源をベースとしたコンテンツ開発
- ・ コンテンツ実施の場/環境整備
(施設運用・学童事業・空家利活用等)

面づくり

線を重ねて
事業に繋ぐ

【活動内容】

- ・ 「暮らし観光」事業
- ・ 環境教育系事業
(イベント・ツアー・キャンプ等)
- ・ 関係事業創出事業
(コミュニティ管理)

これらのフェーズにおいて発生したものを随時村内&村外にPR

流域都市との連携事業（出張木育イベント）



流域都市との連携事業（村でのキャンプイベント）

